



2025年 3月12日
第165号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

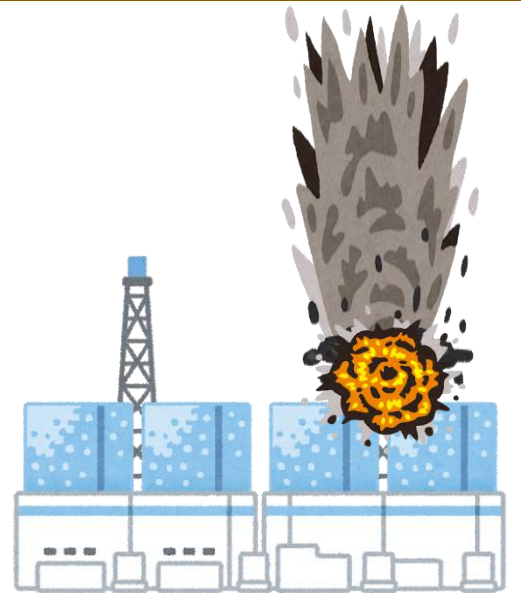
発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

東京電力福島第一原子力発電所水素爆発から14年

昨日、東日本大震災から14年が経過しましたが、14年前の今日、東京電力福島第一原子力発電所の第1号機が水素爆発を起こしました。今もなお、廃炉に向けて現場作業員が過酷な労働条件の中、作業が進められています。一方で、燃料デブリの取り出しが課題となっています。



14年掛かって取り出せたのは耳かき1杯分!?



一体何年掛かるのやら

0.7g / 880t



昨年11月に燃料デブリの取り出しに初成功しましたが、1号機から3号機まで約880tある内の僅か0.7gでした。全ての燃料デブリを回収するには途方もない時間が掛かる見込みです。東京電力は2051年の廃炉を目指していますが「**絵姿は描けていない**」状態です。そんな中、岸田政権において原発の新規建設や60年を超える運転を認めることを盛り込んだ「GX（グリーン・トランスフォーメーション）実現に向けた基本方針」を閣議決定しており、原発への依存が未だに続いています。

地震大国日本！ 原発が事故を起こさない保障はどこにもない！

事故が起きてから廃炉にするまで「**人類未踏のチャレンジ**」と述べているようですが、万が一の事態に備えていなかったという証拠でもあります。高レベル放射性廃棄物の最終処理場も未だに決まっておらず「**トイレのないマンション**」と言われていています。高レベル放射性廃棄物が安定域に達するまで**10万年**と言われていています。10万年管理できる保障がどこにあるのでしょうか。リスク管理が万全ではない中、万が一の事態にも対処できない原発を稼働し続けて本当に安心ですか？

未来の子ども達に安心して暮らせる地球を残すために、原発の再稼働に反対していきましょう！